

2021（令和3）年度

弘前学院大学「卒業時アンケート調査」

実施結果報告書

まえがき

大学における教育の質について、その充実・向上、点検・検証、それらを踏まえた改善というサイクルが求められ、本学でも全国の大学で広く実施されてきている。

本学でも全学教学マネジメント体制を整備しつつ、教育の質保証に係る評価の一環として、2018年度以来、この「卒業時アンケート調査」を学士課程教育の検証を目的として、学生の成長実感、満足度に焦点を当て、初年次教育、教養教育、専門教育の成果・効果を測るために、あわせてその支援体制としての学修環境・学生生活に関する意見を求めた。

本学の教育の有効性を検証し、あわせて外部への説明責任を果たすべく、この結果を公表するものである。

目 次

- I 卒業時アンケート調査実施要項（1）
- II 実施結果（2）
- III 資料：卒業時アンケート調査票（20）

I 卒業時アンケート調査実施要項

はじめに

「大学 FD 委員会」の規程第 5 条に基づき、本学の教育の質保証に係る評価の一環として、卒業生に対する卒業時アンケート調査を実施する。

1. 目的

弘前学院大学の教育の質保証について、本学の学士課程教育の有効性の検証を行うべく、本学の学部教育における学修成果に関して、卒業時の学生がどのような意識を持っているかを調査・分析し、その結果を踏まえて、教育課程・教育方法・教育内容等の充実、改善に資することを目的とする。

2. 内容

(1) 学士課程教育について、および学修環境、学生支援、その他について。

基礎教育、教養教育についての意識、評価

専門教育についての意識、評価および進路との関連性

(2) 学修環境、学生支援

(3) 弘前学院大学に対する要望、評価

3. 設問

資料：「卒業時アンケート調査票」参照

4. 調査主体

大学 FD 委員会。

5. 調査時期

2022 年 3 月、卒業時。

回収率および調査の精度を上げるため、学位記授与式の前日の予行日に実施する。

(実施日：2022 (令和 4) 年 3 月 11 日 (金))

6. 調査方法

各学部を通じてアンケート用紙を配布し、回収する。

7. 調査対象者 (卒業予定者数、回収数、回収率)

2021 年度卒業 (予定) 学生を対象とする。

8. 実施体制

大学 FD 委員会および各学部 FD 委員会。

II 実施結果

1. 回収率

実施した結果、卒業予定者数 163 人、回収数 149、回収率 91.4%となり、前年度 (89.3%) より高い回収率となった。

卒業学部・学科ごとの内訳

卒業学部・学科	卒業予定者数	回収数	回収率 (%)
文学部	57	51	89.5
英語・英米文学科	26	22	84.6
日本語・日本文学科	31	29	93.5
社会福祉学部・社会福祉学科	41	39	95.1
看護学部・看護学科	65	59	90.8
全体	163	149	91.4

(社会福祉学部と看護学部は、1学部・1学科である。)

2. 回答内容、データ

以下、設問ごとにその回答内容等をみていく。

(なお以下において、学部・学科を次のように略称する場合がある。

文学部：英語・英米文学科→英文。文学部：日本語・日本文学科→日文。

社会福祉学部→社福。看護学部→看。)

問02 進路(進学、就職)について以下のものである。

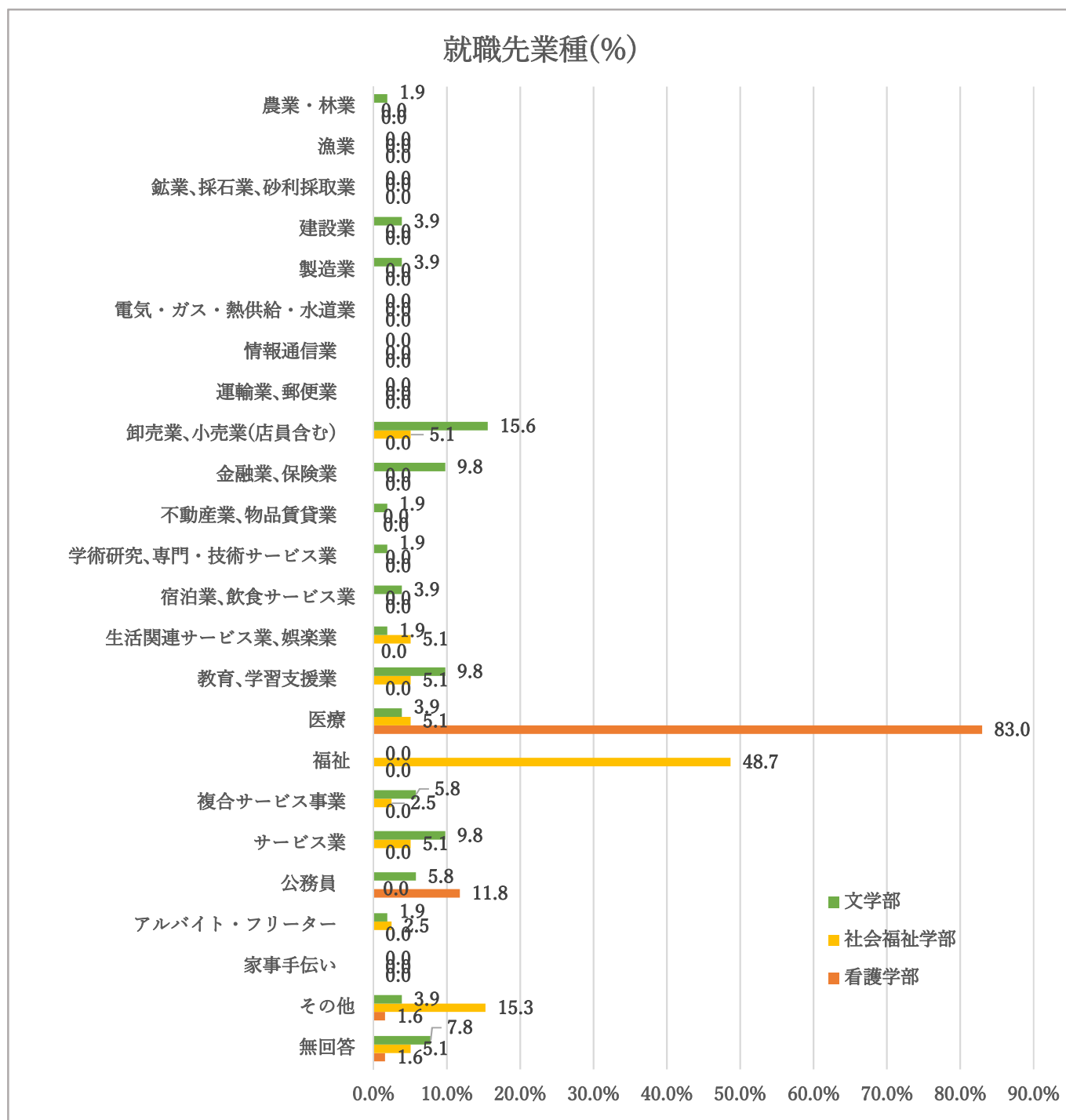
進学について

卒業学部・学科	進学先	本学大学院	他大学大学院	他大学、 専門学校等
文学部		1	1	1
英語・英米文学科		0	1	1
日本語・日本文学科		1	0	0
社会福祉学部・社会福祉学科		0	0	2
看護学部・看護学科		1	0	0
全体		2人	1人	3人

就職等について

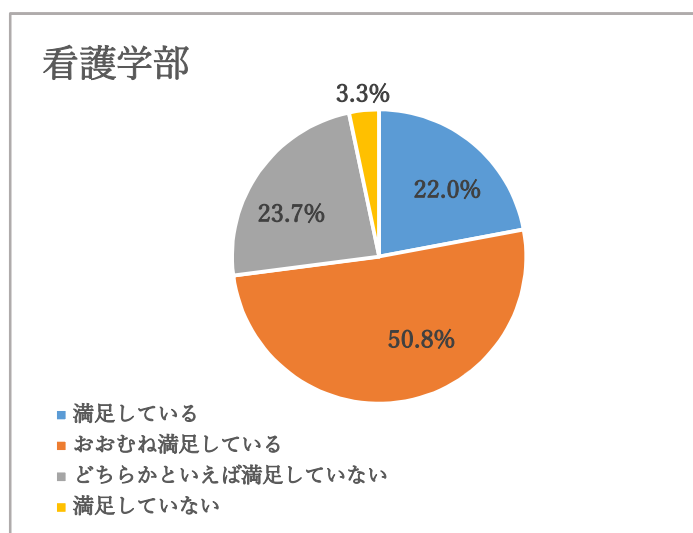
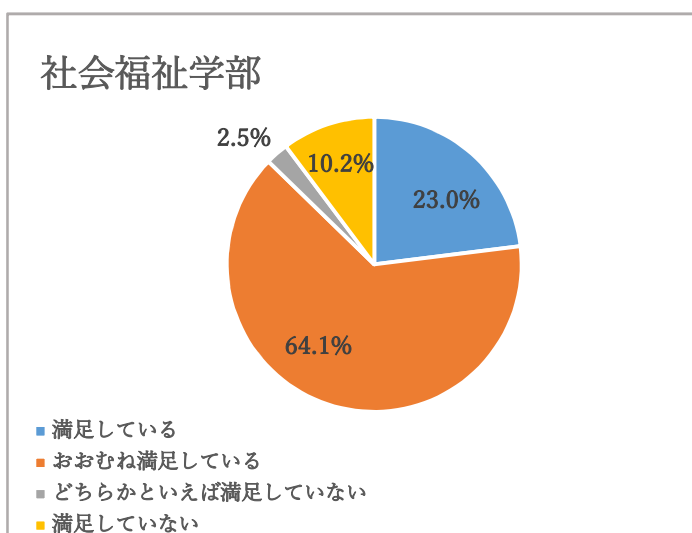
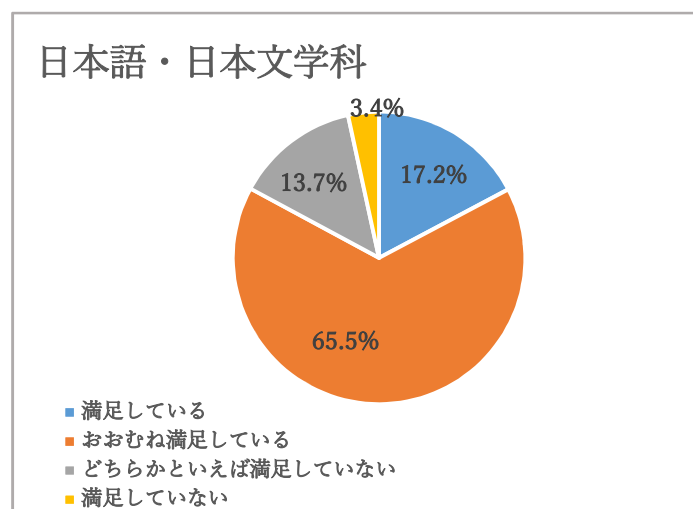
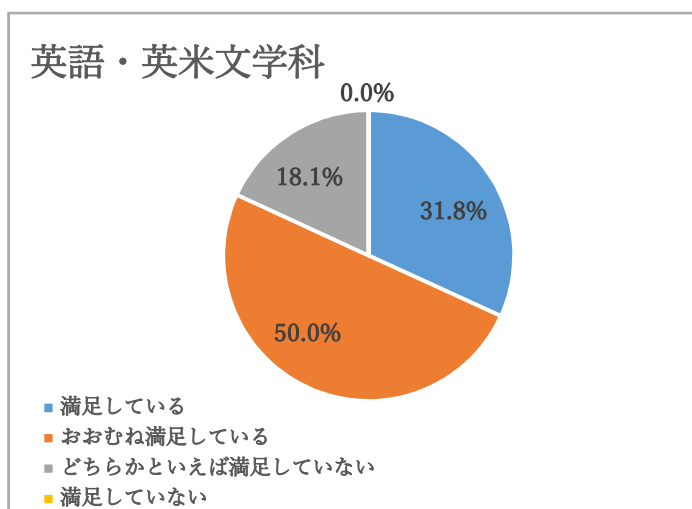
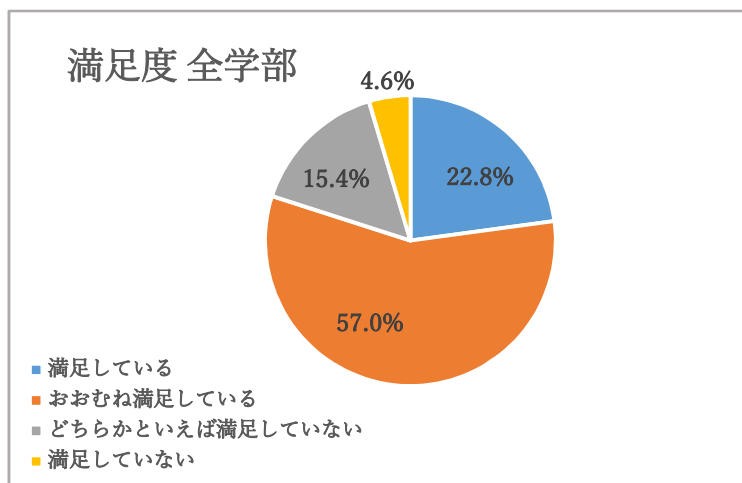
学部の特徴が現れているので、業種ごとに3学部を配列した。

文学部は業種が多岐に亘るが、社会福祉学部では福祉関係が約49%で、昨年度の約72%の23ポイント減（一昨年度は26%）となった。看護学部では医療関係が83%で昨年度の約90%より減少した（一昨年度は約90%）。



問 03 学業・学生生活の満足度をたずねた設問である。

全学的には、「満足」及び「おおむね満足」合わせて約 80%であるが、昨年度の約 79%（一昨年度は約 83%）より 1 ポイントの増となった。学部・学科別に昨年度比をみると、文学部・英語英米文学科は 1.8 ポイント増、同日本語日本文学科は 1.5 ポイント増、社会福祉学部は 3.4 ポイント増であったが、看護学部は 1.3 ポイント減であった。



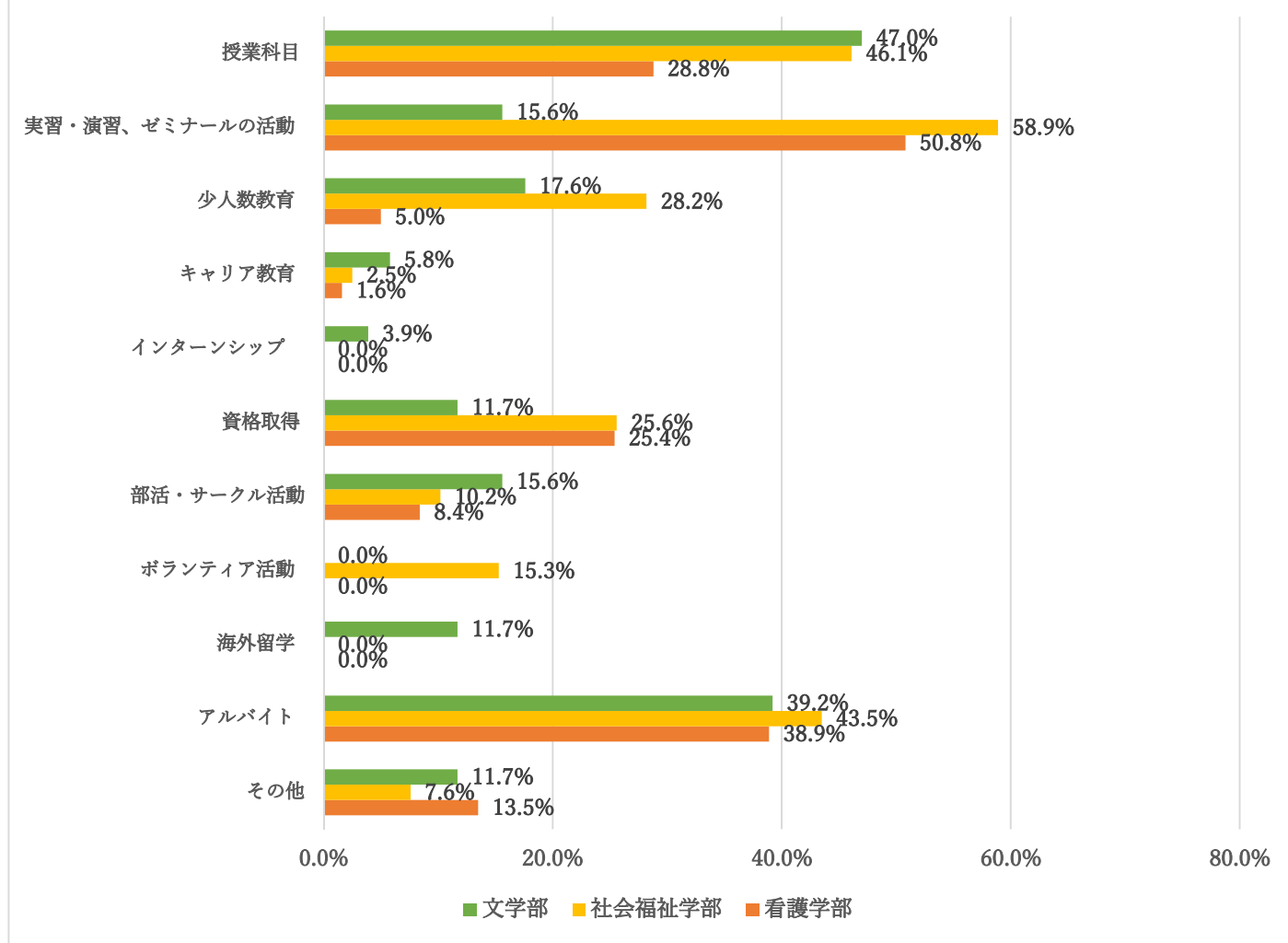
問04 前問3の満足度に続けて、さらに具体的に大学での勉学や学生生活にとって良かったと思う項目をたずねた設問である。

学部・学科ごとに異なる分布を示しているが、割合の高い3位までの項目を挙げてみると次のようである。

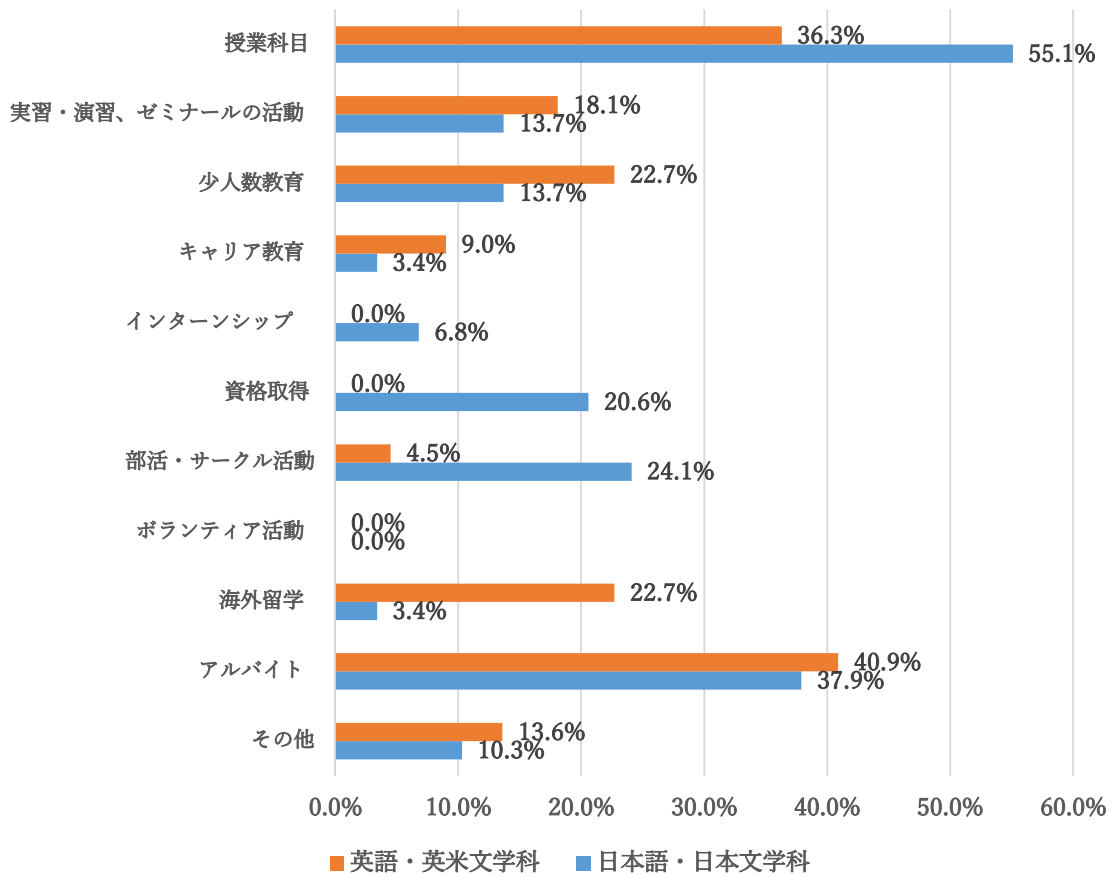
文学部・英文では、1位…アルバイト、2位…授業科目、3位…少人数教育、海外留学。日文では、1位…授業、2位…アルバイト、3位…部活・サークル活動。社会福祉学部では、1位…実習・演習・ゼミナール活動、2位…資格取得、3位…アルバイト。看護学部では、1位…資格取得、2位…授業科目、3位…アルバイト。

本年度は昨年度と比べて、3学部ともアルバイトの比率が高かったが、これはコロナの影響と関係があるのだろうか。授業関係では、実習・演習・ゼミナール活動や授業科目が高かった。しかし社会福祉学部と看護学部で、昨年度まで比較的高かった「資格取得」が意外にも今回下がっている。

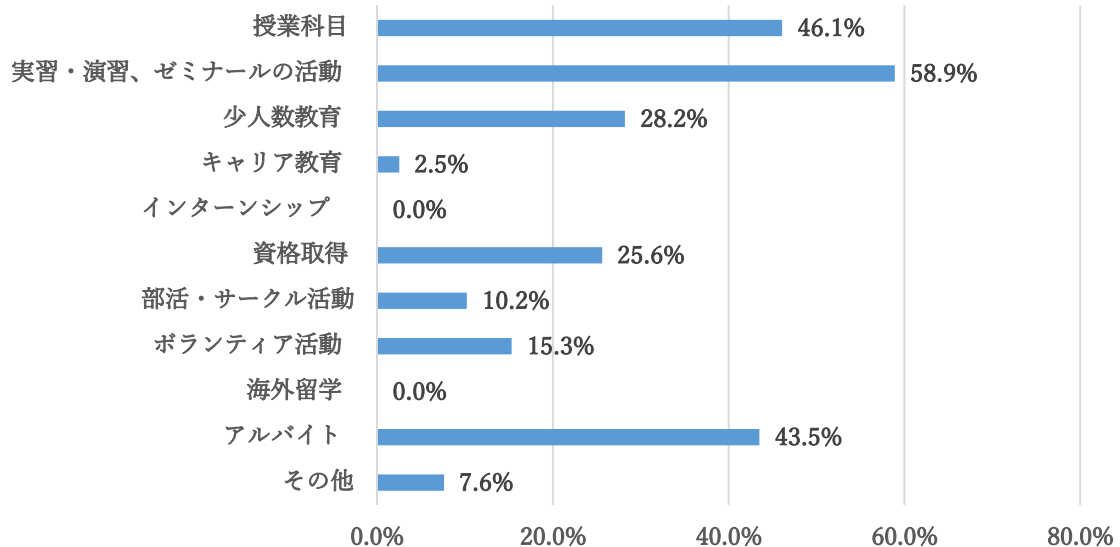
全学部（複数回答）



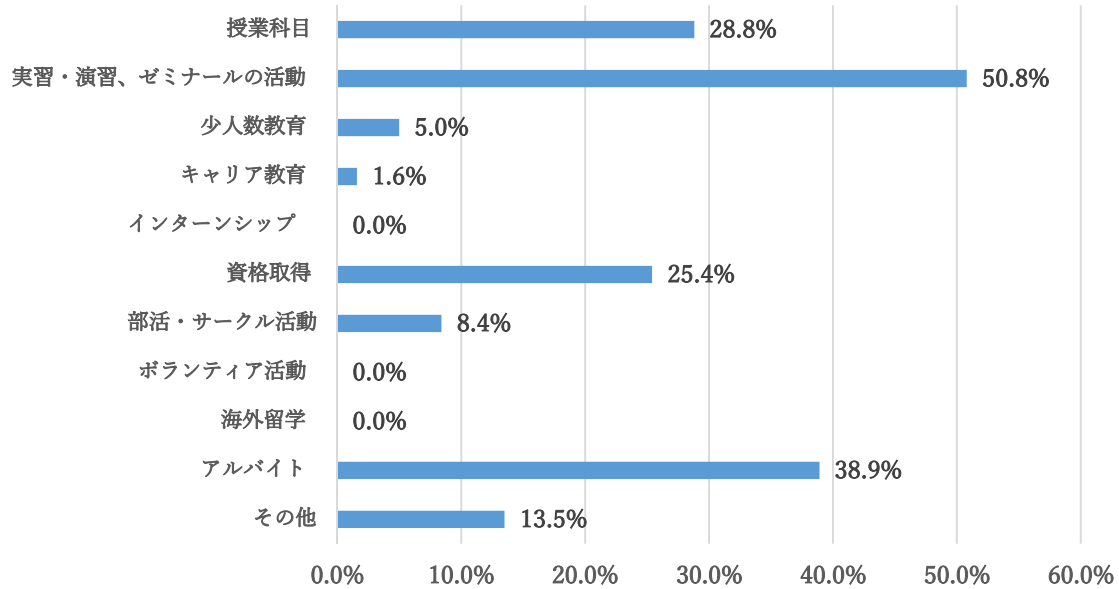
文学部



社会福祉学部

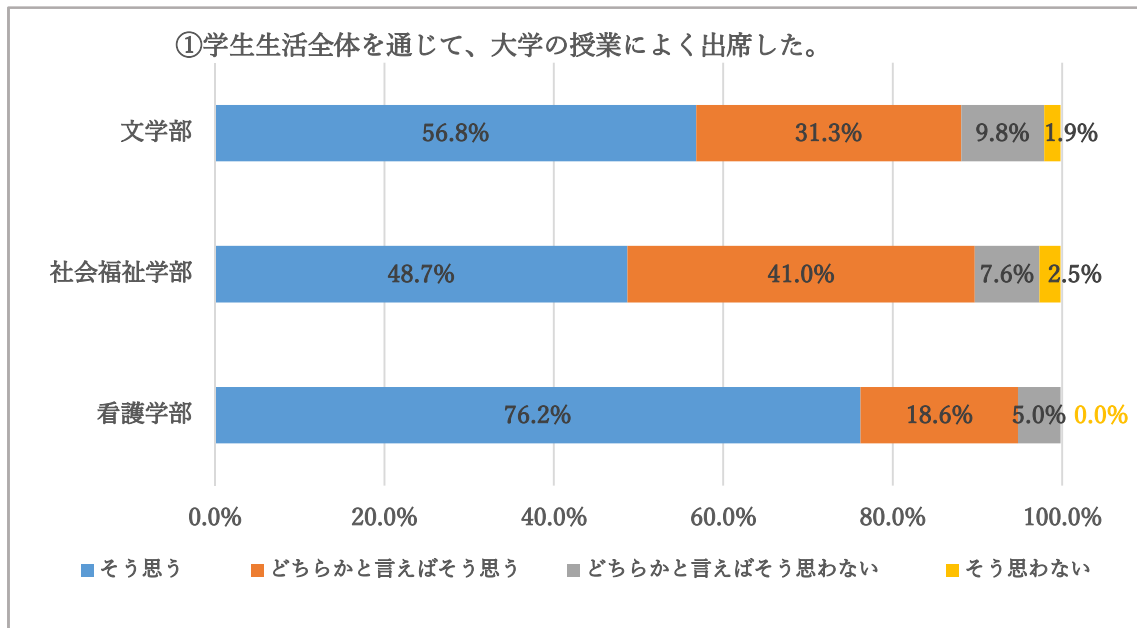


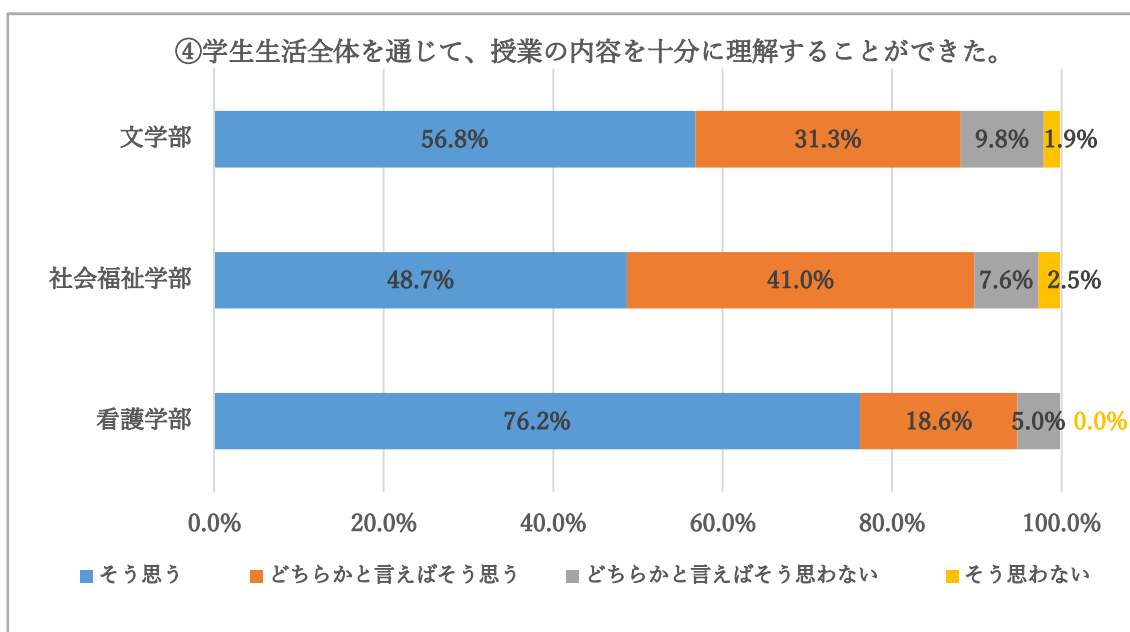
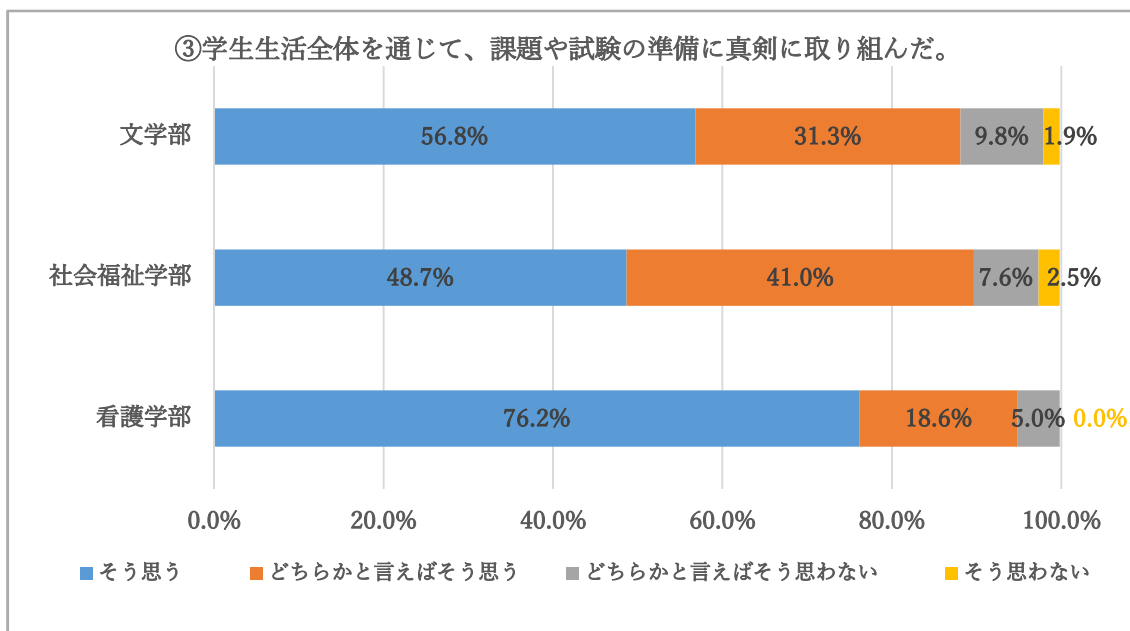
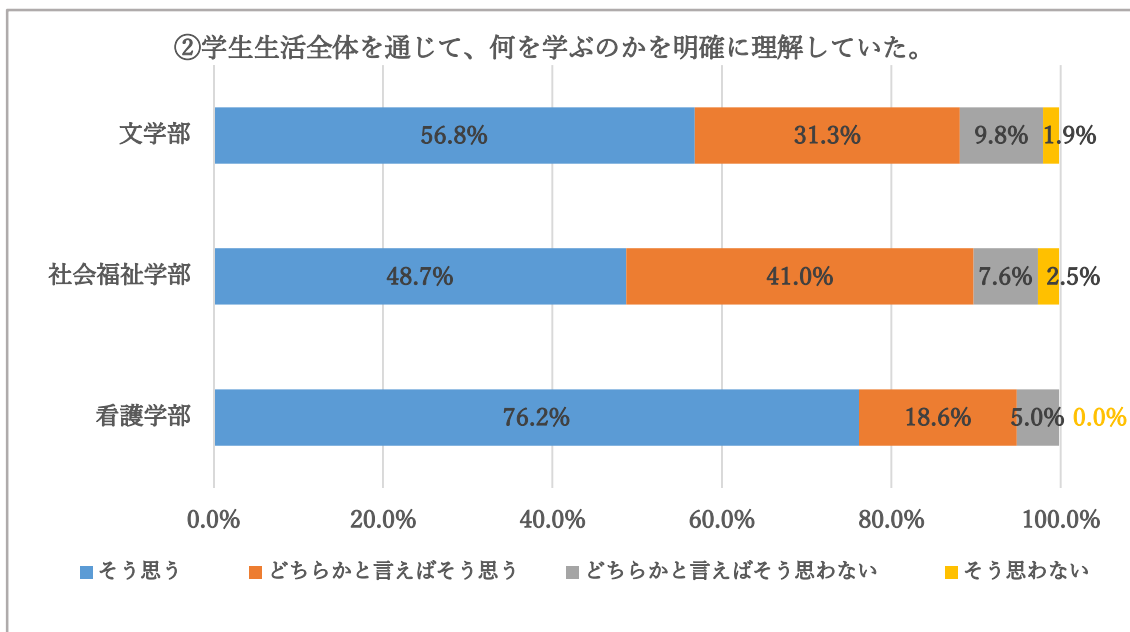
看護学部

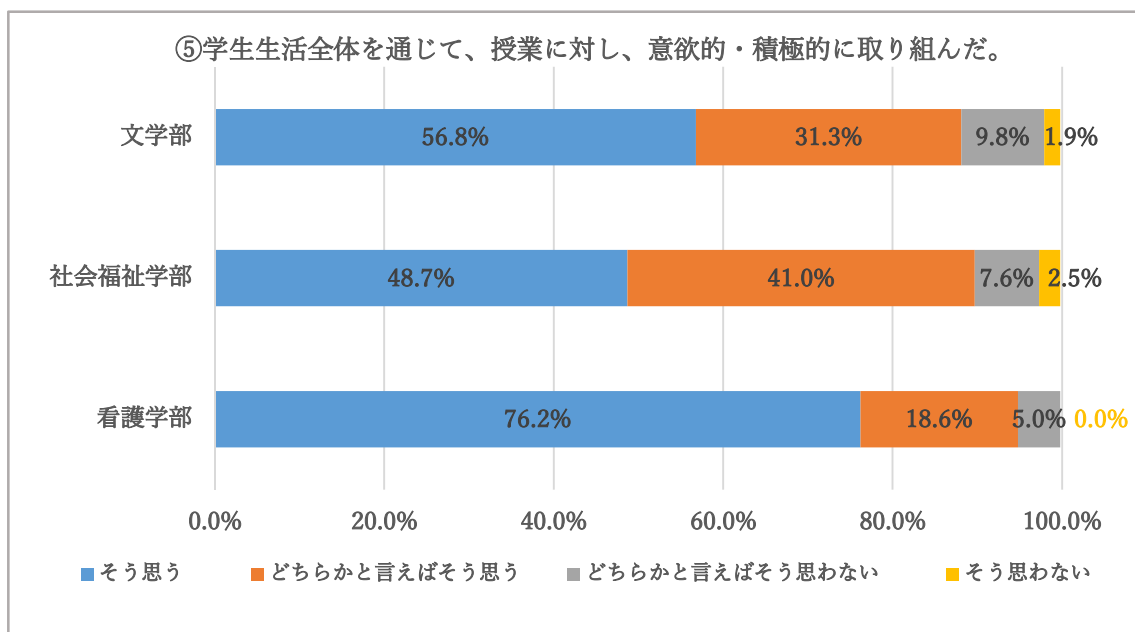


問 05 大学での学修についての自己評価である。

ここでは以下の5つの側面からたずねた。すなわち（1）授業出席率、（2）学ぶ目的の理解度、（3）課題、試験等への取り組み度、（4）授業内容の理解度、（5）授業への意欲である。その結果、いずれにおいても、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」という肯定的回答が、昨年・一昨年と同様、全体の8割から9割の高率であるのは喜ばしい結果である。







問 06 1・2年次における基礎科目、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目、キャリアサポート科目、単位互換科目、情報処理科目の中で、有益だったと思う分野や科目をたずねた設問である。

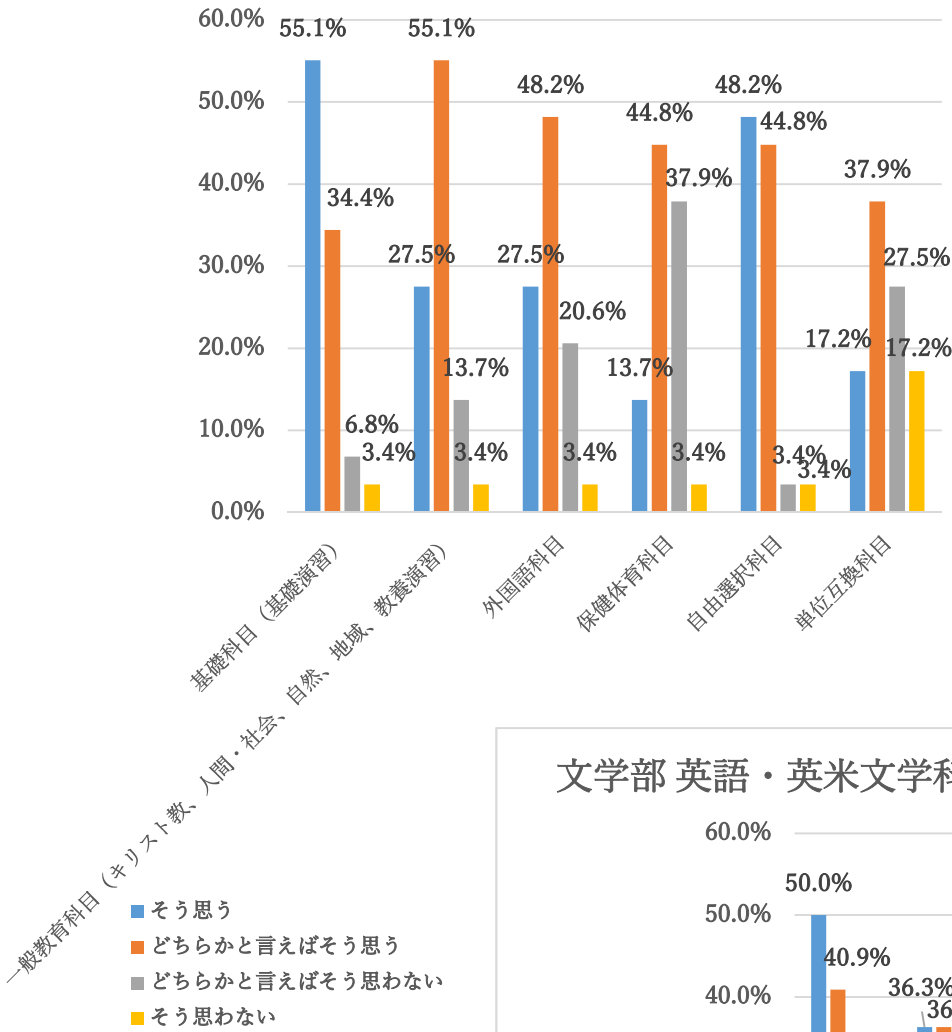
この設問6は、学部・学科ごとの固有の選択肢となっているので、学部・学科ごとに示すこととする。

「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」とを合わせた肯定的回答で見ると、文学部・英文では、基礎科目、保健体育科目、一般教育科目で7割台となっており、文学部・日文では、自由科目、基礎科目、保健体育科目、一般教育科目が8, 9割台であった。

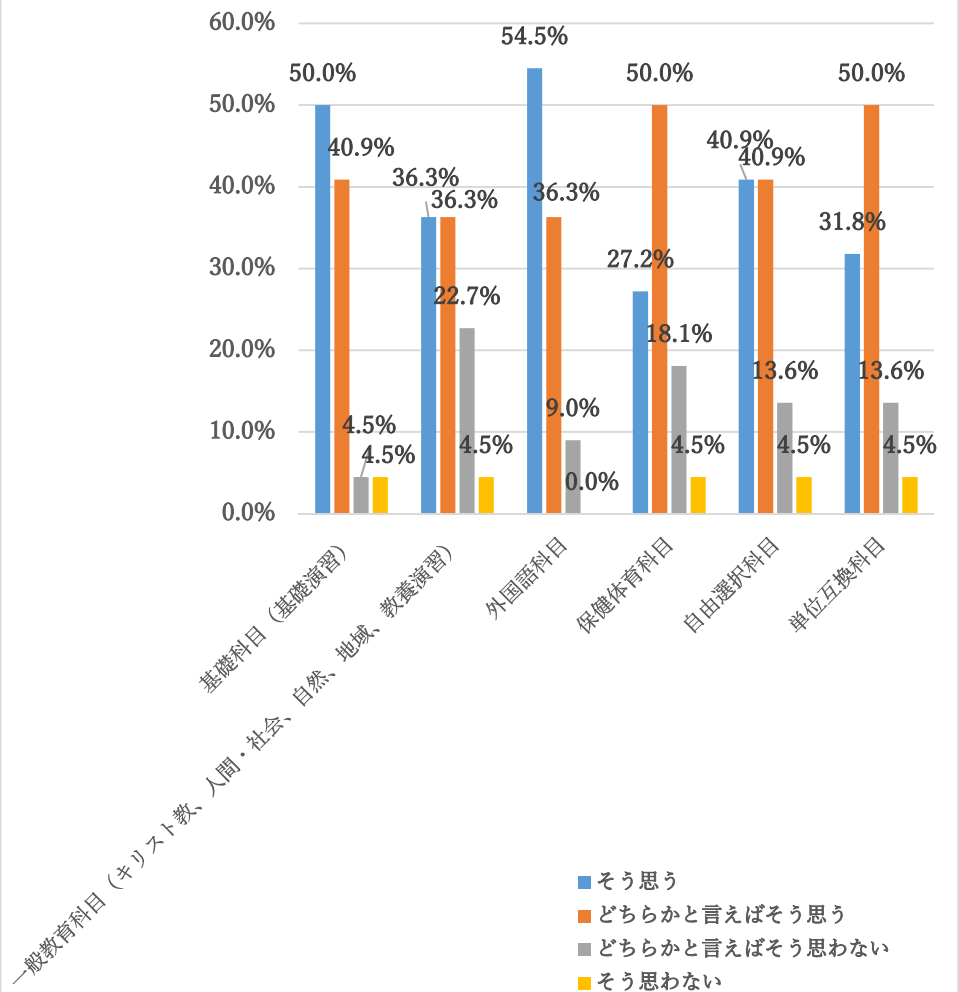
社会福祉学部では、基礎教育科目系の2種の科目を取り上げて尋ねているが、この2種の基礎教育科目系のいずれも、昨年度・一昨年度と同様に9割台の高評価である。

看護学部では、4種の科目を取り上げて尋ねているが、基礎演習が昨年度同様の9割の有益系回答である。しかし、これ以外の3種は3～5割台であった。

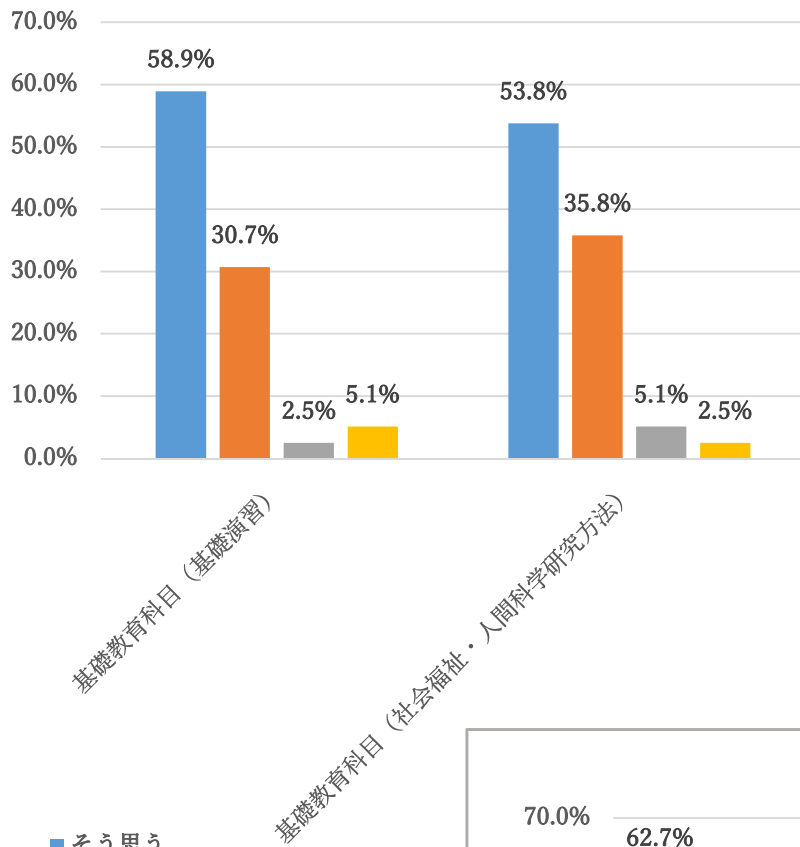
文学部 日本語・日本文学科



文学部 英語・英米文学科

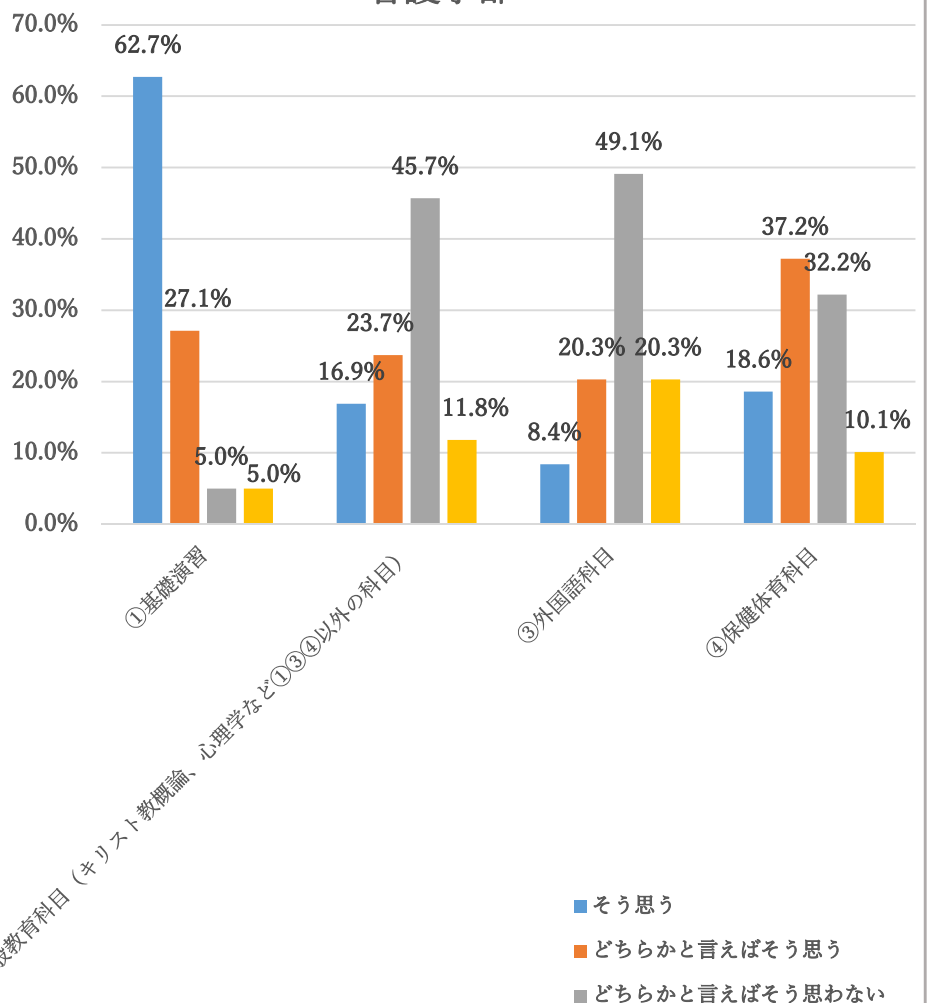


社会福祉学部



- そう思う
- どちらかと言えばそう思う
- どちらかと言えばそう思わない
- そう思わない

看護学部

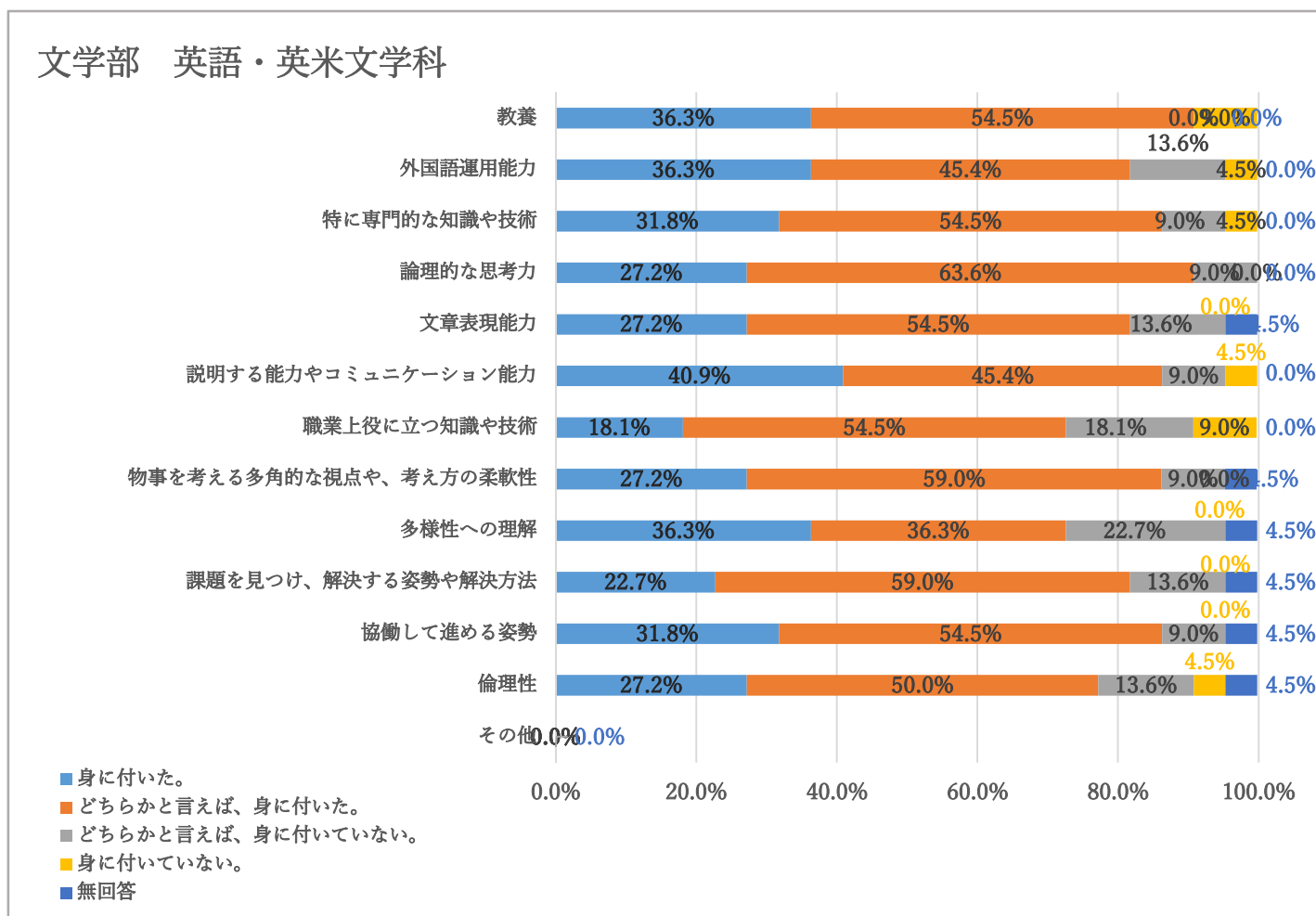


- そう思う
- どちらかと言えばそう思う
- どちらかと言えばそう思わない
- そう思わない

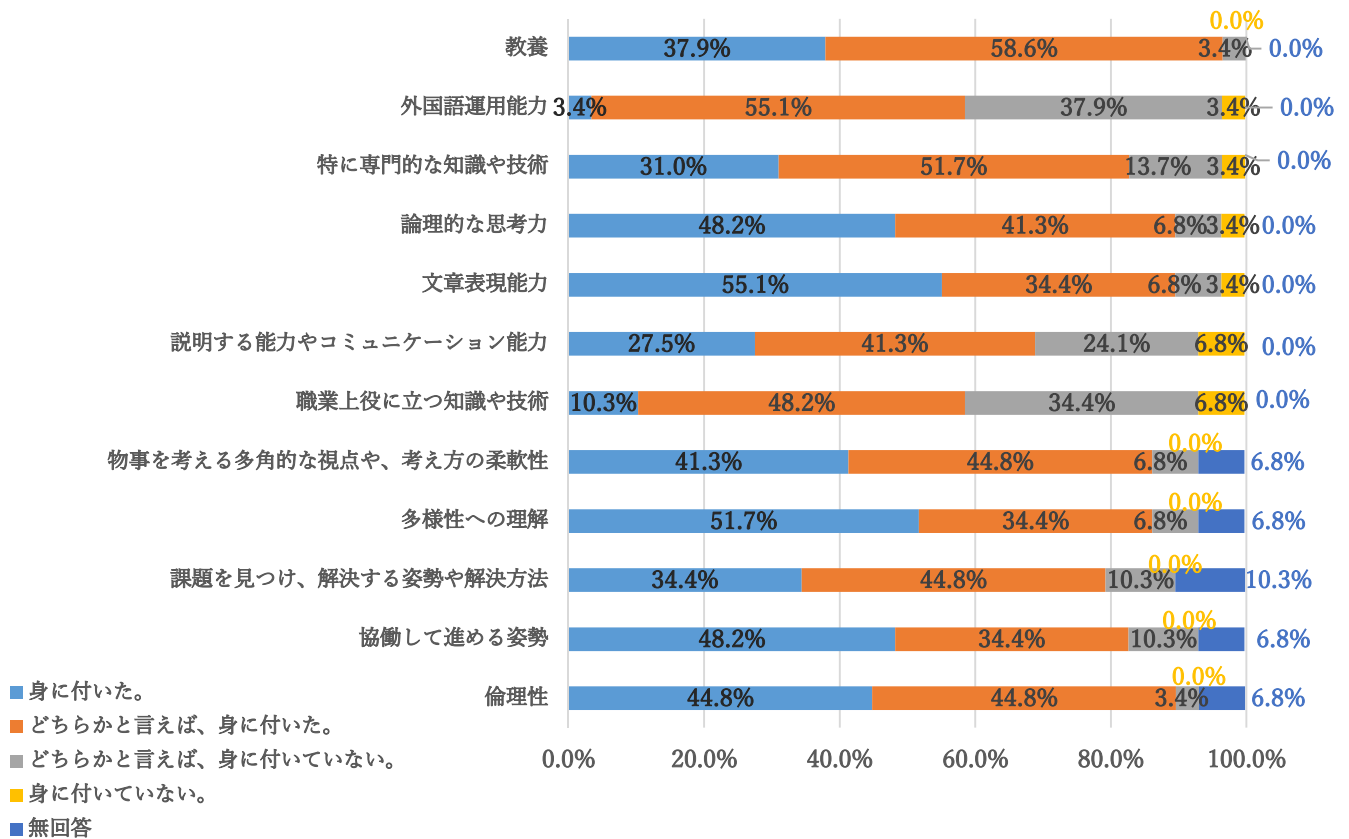
問 07 前問に続けて、学部・学科の専門教育科目についてである。それらの授業を通して、どのような知識・技能・能力が身に付いたか、自己評価してもらう設問である。これも学部・学科固有の選択肢を含んでいるので、学部・学科ごとに示す。

全体的に、どの学部・学科においても、「身に付いた」「どちらかと言えば身に付いた」という肯定的自己評価が7割、8割以上であるのは喜ばしい。

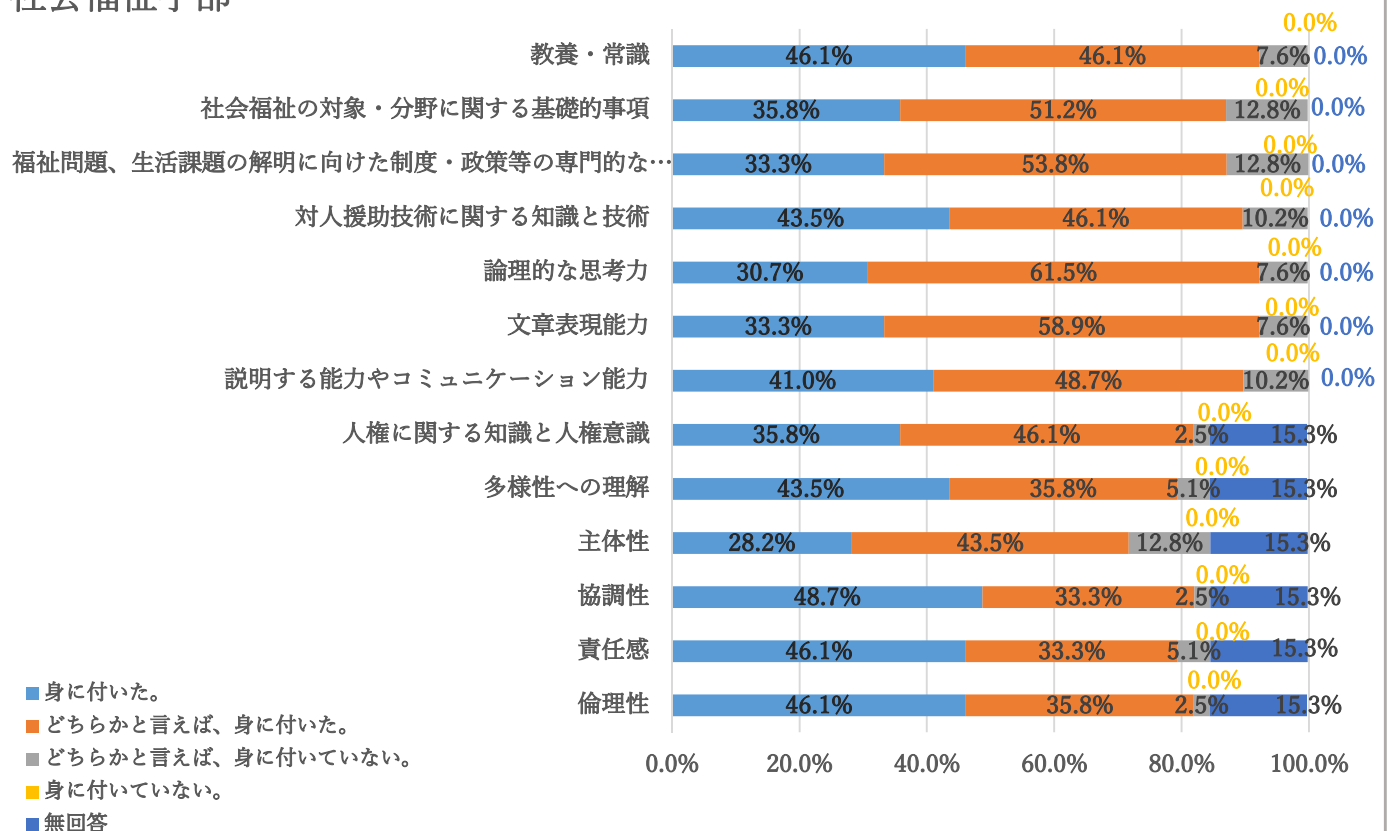
反面、「身に付いていない」「どちらかと言えば身に付いていない」という否定的自己評価も散見する。その中から比較的多い項目を挙げてみると、文学部・英文では、「職業上役に立つ知識や技術」、「多様性への理解」、「倫理性」、文学部・日文では、「外国語運用能力」、「職業上役に立つ知識や技術」、「説明する能力やコミュニケーション能力」、社会福祉学部では「社会福祉の対象・分野に関する基礎的知識」、「福祉問題・生活課題～知識」、「主体性」、看護学部では「国際的視野」、「リーダーシップ」、「研究的態度」であった。



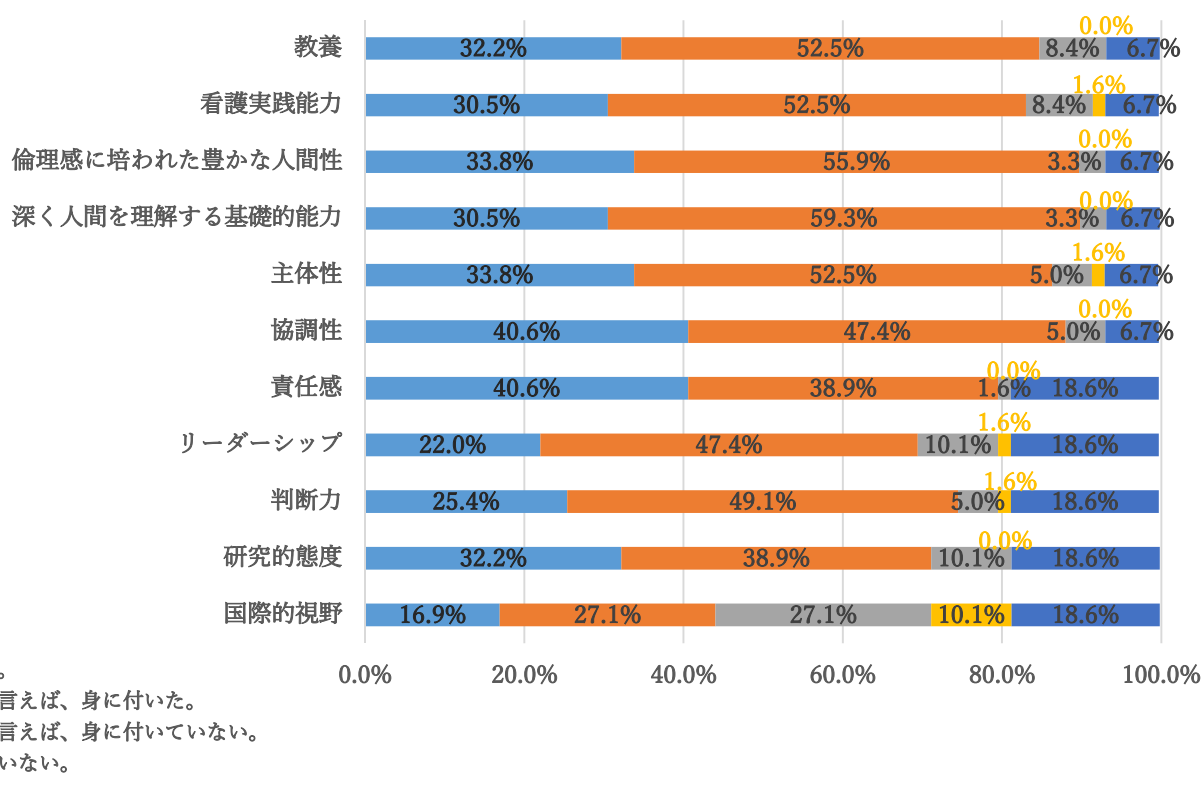
文学部 日本語・日本文学科



社会福祉学部



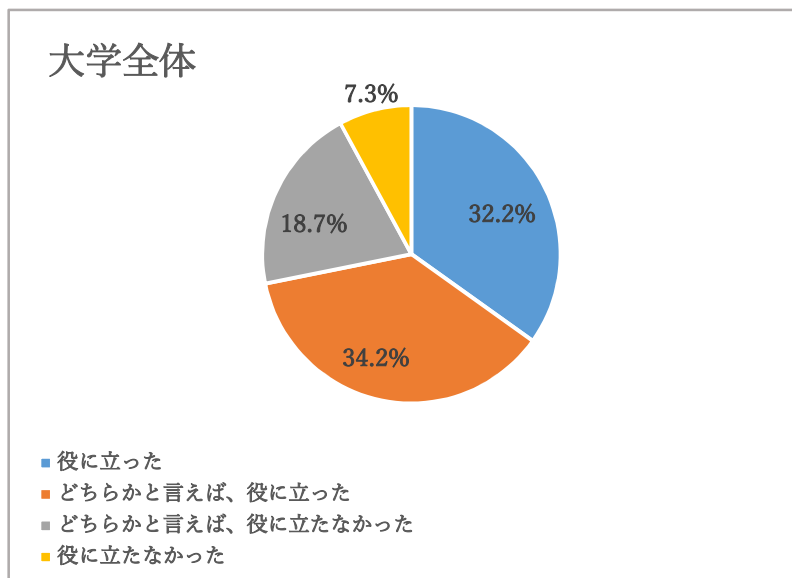
看護学部



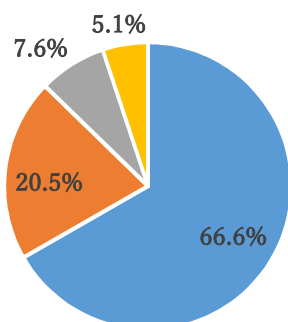
問 08 学部での学修が、進路選択に有効だったかどうかの設問である。

「役に立った」と「どちらかと言えば役に立った」と合わせた〈役立った〉系の回答を見ると、大学全体の約 66%は、昨年度の約 82%に比して急減した。ただし学部教育の特徴を反映しているゆえか、昨年度は学部によってかなり異なる傾向をみせていた。

今回、文学部は昨年に比べて〈役立った〉系が増加した。英文は約 86%（昨年度約 67%）、日文は、約 69%（昨年度約 63%）と増えている。社会福祉学部では、約 87%（昨年度と同）と昨年並みであった。ただし看護学部では、昨年の約 93%を超え、約 98%の高率となった。

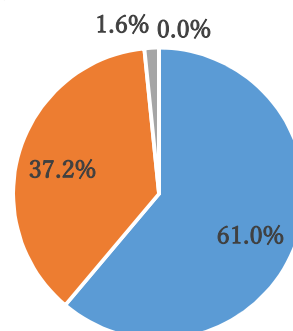


社会福祉学部



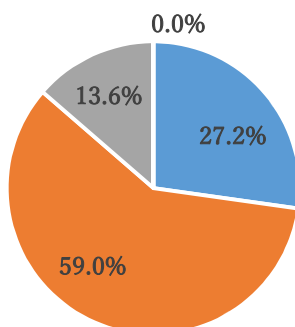
- 役に立った
- どちらかと言えば、役に立った
- どちらかと言えば、役に立たなかった
- 役に立たなかった

看護学部



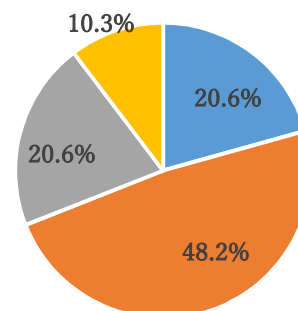
- 役に立った
- どちらかと言えば、役に立った
- どちらかと言えば、役に立たなかった
- 役に立たなかった

英語・英米文学科



- 役に立った
- どちらかと言えば、役に立った
- どちらかと言えば、役に立たなかった
- 役に立たなかった

日本語・日本文学科

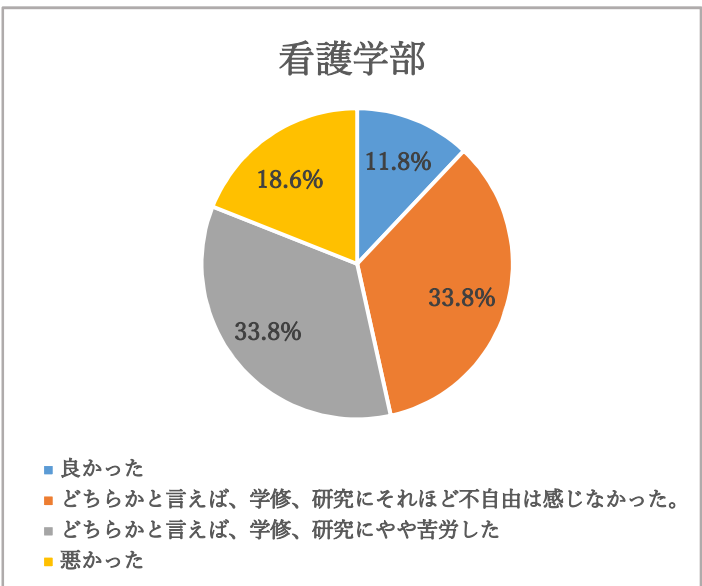
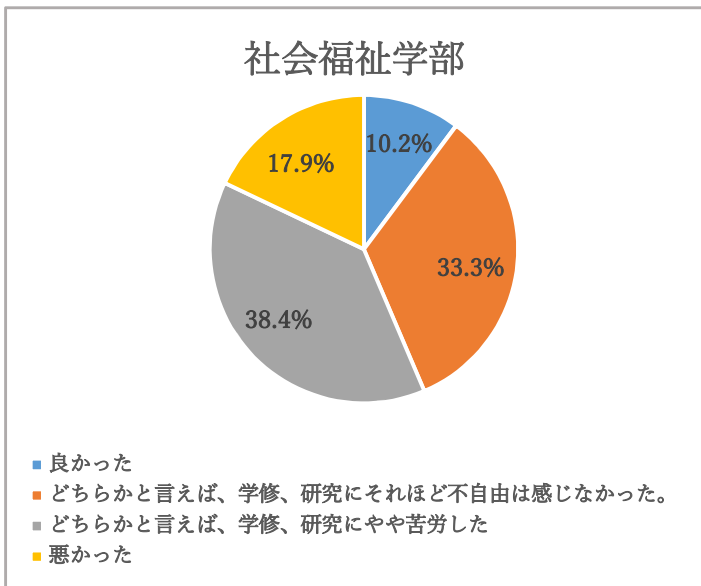
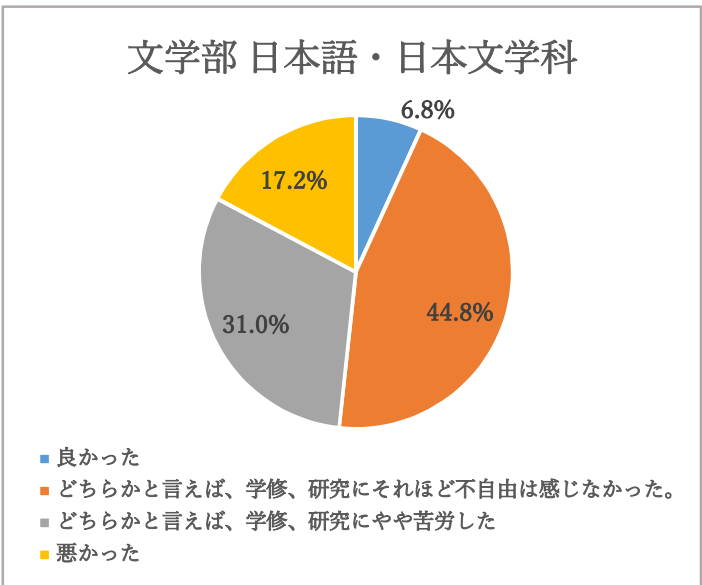
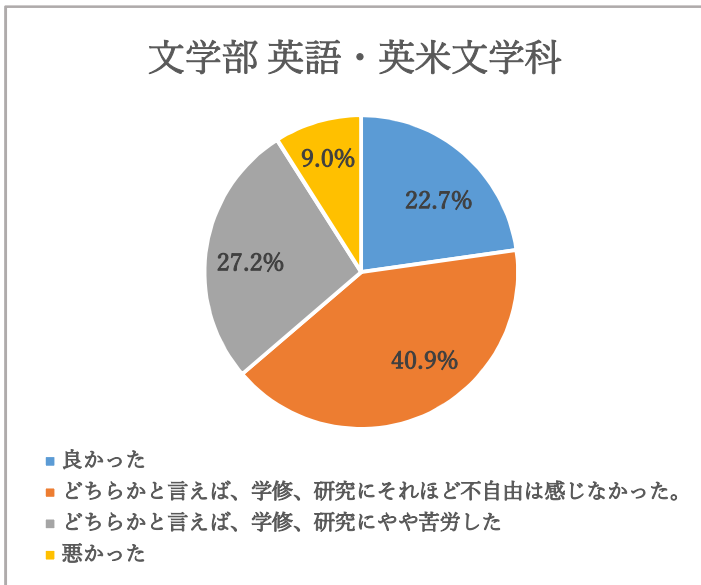
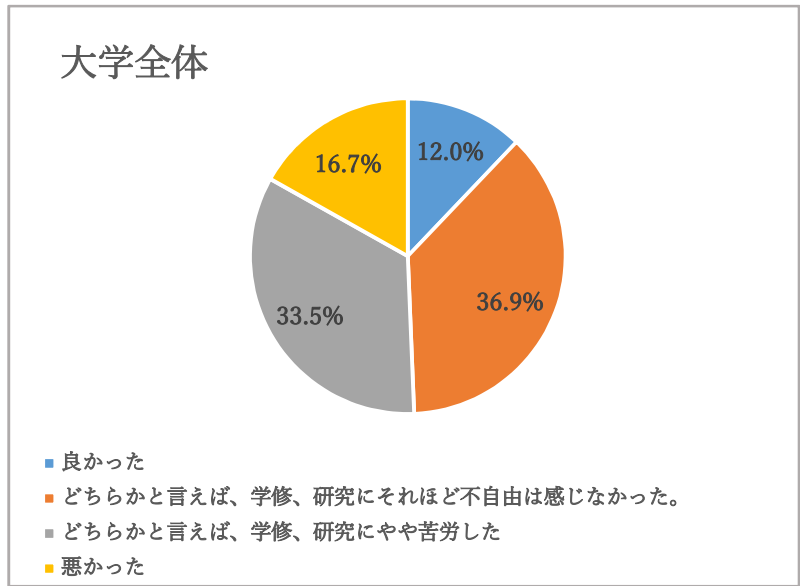


- 役に立った
- どちらかと言えば、役に立った
- どちらかと言えば、役に立たなかった
- 役に立たなかった

問 09 学修・研究環境について、施設、設備、備品の充実度を評価する設問である。

「悪かった」と「学修、研究にやや苦勞した」とを合わせた否定的評価の割合からみると、大学全体としては、昨年度は約 40%であったが、今年度は 50%となり、否定的な評価が増加している。

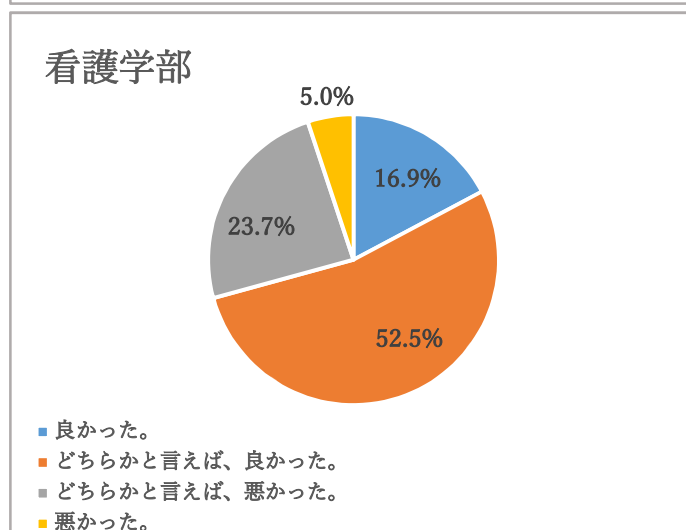
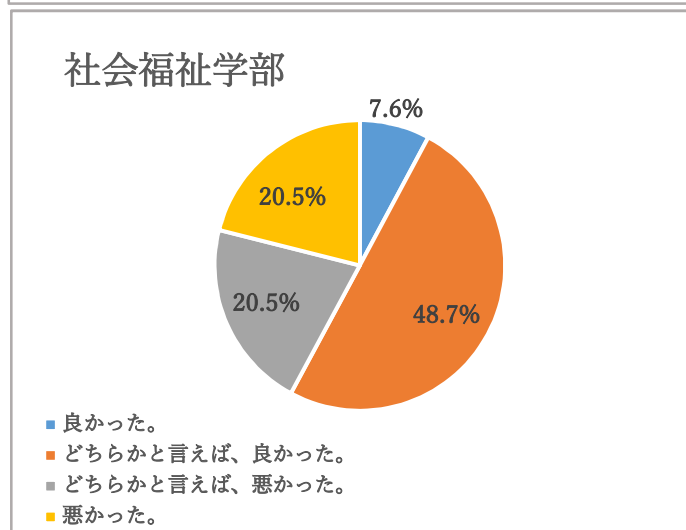
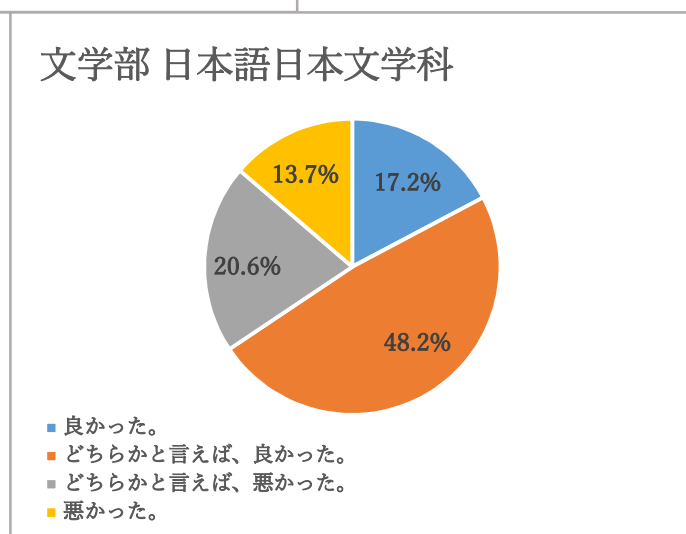
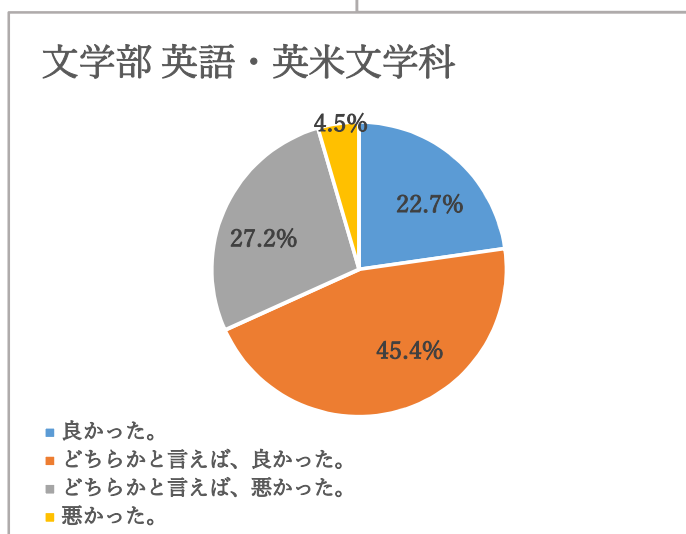
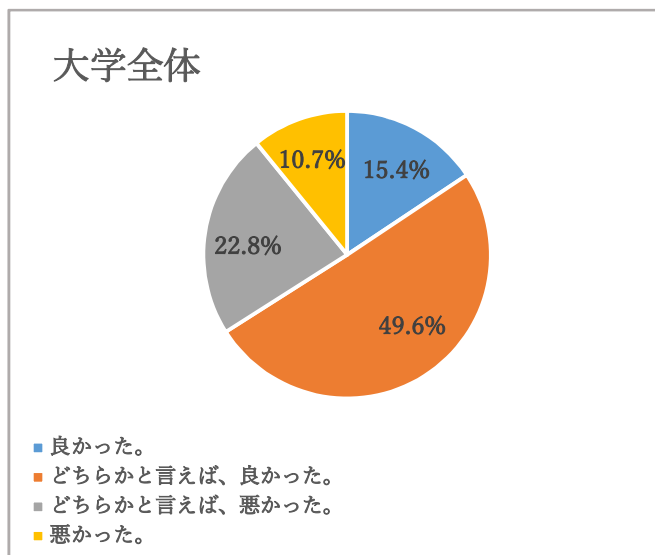
この否定的評価について、文学部・英文では約 36%（昨年度約 27%）、日文では約 48%（昨年度 34%）と増加し、さらに社会福祉学部では約 56%（昨年度約 27%）と倍増した。しかし看護学部では約 52%（昨年度 56%）と微減している。



問10 就職活動に対する大学の支援についての評価である。

今年度は昨年度に比して総体的に下降した。「良かった」と「どちらかと言えば良かった」が、大学全体では、昨年は7割7分だったが、今年は6割5分となった。

〈良かった〉系を学部別に見ると、文学部平均67%（昨年76%）、社会福祉学部56%（昨年76%）、看護学部69%（昨年72%）であり、学部によってはかなり減少している。



問 11 大学生活、大学教育等に関して、充実や改善すべき点を自由に記述してもらおう設問である。

以下、事項やテーマごとに分類して示す。要望・希望の内容によって分けると、延べ約 80 件あった。そのうち最も件数の多かったのは、エアコン・冷房であり、昨年と同様であった。また昨年に比べて教員に対する不満が多かった。次いで種々の試験対策、就職支援関係、昨年出されていた食堂・学食の設置要望もあった。以下、特徴的な意見等を取り上げる。

I 施設・設備関係

(1) エアコン・冷房の要望

- ・冷暖房環境の整備をしてほしい。
- ・エアコンが必要。(複数)

(2) 食堂・学食

- ・食堂を作ってほしかった。

(3) Wi-Fi 環境

- ・Wi-Fi 環境が悪い。
- ・Wi-Fi 環境と充実とエアコンの設置。(多数)
- ・WiFi はあったが、回線が弱いのかオンライン会議が切断された(全部の建物に設置してほしい)。

(4) 自習スペース等

- ・自習するための部屋が圧倒的に不足している。(複数)
- ・自習スペースが少ない。
- ・休み時間ラウンジがいっぱいと居場所がなかったので空き教室の一覧が欲しかった。
- ・ストーブのつかない教室があったので、空き時間にラウンジなど居られる場所を増やしてほしい。

(5) その他

- ・医療器械が足りない。
- ・図書館に必要な本が少なく不便だった。(卒論の文献収集に苦労した)

II 大学の情報発信、大学・学部からの連絡、通知について

- ・一般就職と福祉関係就職の時期の違いや国家試験勉強の両立を考えて、アナウンスをもっとするべき。

III カリキュラム、授業関係

(1) 授業関係

- ・他学部の教員の授業が有意義に感じなかった。

(2) 教員の授業、姿勢

- ・学生へのサポートが足りない先生がいる。

- ・教員のハラスメント行為や評価基準の明確化。
- ・学生が傷つく言葉や行動をする教職員がいる。
- ・パワハラと感じる嫌な思いをした（奴隷扱い、その教員をやめさせてほしい）
- ・学生とのことをもう少し考えてほしい（特に厳しい先生がいて、呼ばれてもすぐにいけない感じでした）。
- ・学生から評判の悪い授業の改善、指導者の変更。
- ・学生に対して誠実であってほしい。
- ・学生の声に耳を傾けてほしい。（複数）
- ・良い先生が肩身の狭い思いをしないような学校であってほしい。
- ・どの先生も親身になって相談にのってくれた。

(3) 種々の試験対策等

- ・国試対策の支援が最悪。
- ・教員採用試験の対策の充実。
- ・公務員講座の充実。

IV 就職支援・進学関係

- ・就職への支援がもっと必要。
- ・就職課のメール一斉送信時のアドレスの暗号化。
- ・就職関係は、ジョブカフェあおもりなどと協力したほうがいい。
- ・就職支援は保健師に対してもう少し手厚くしてほしい。
- ・就職や進学について3年の時から相談する場がもっとほしかった。

V コロナ関係

- ・実習2W前自宅待機で県外の試験受けられなかった。

VI その他

- ・情報開示が少ない。

Ⅲ 資料

(1) 卒業時アンケート調査票

(注) 本調査票は、学部ごとに作成したが、構成上は、全学部共通項目と学部固有の項目となっているので、以下では、それらをまとめて一覧できるようにした。

- ・設問1～5、8～11は、全学部共通項目。
- ・設問6、7は各学部固有の項目を含む。

「卒業時アンケート」のお願い

ご卒業おめでとうございます

このアンケートは、弘前学院大学の学士課程教育及び学生支援の点検・評価を目的として、卒業する皆さんに、学士課程教育の効果・成果や学生支援の状況等についてお尋ねするものです。

回答は無記名です。公表される集計結果から個人が特定されることや、回答者が不利益を被ることはまったくありませんので、安心してご回答ください。

なお、回答し難い項目はそのままでも結構です。

2022(令和4)年3月 弘前学院大学

問01 あなたの所属について伺います。

次の1～4の該当する数字をマークしてください。

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 文学部・英語英米文学科 | 2. 文学部・日本語日本文学科 |
| 3. 社会福祉学部・社会福祉学科 | 4. 看護学部・看護学科 |

【全学部共通】

問02 進路について伺います。

【進学】進学された方は、次の1. 2. 3. の該当する数字をマークしてください。

1. 他大学の大学院へ
2. 本学の大学院へ
3. 他大学、専門学校等へ

【就職】就職された方は、次の1～23の該当する数字をマークしてください。

1. 農業・林業
2. 漁業
3. 鉱業、採石業、砂利採取業
4. 建設業
5. 製造業
6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 情報通信業
8. 運輸業、郵便業
9. 卸売業、小売業(店員含む)
10. 金融業、保険業
11. 不動産業、物品賃貸業
12. 学術研究、専門・技術サービス業
13. 宿泊業、飲食サービス業
14. 生活関連サービス業、娯楽業
15. 教育、学習支援業
16. 医療
17. 福祉
18. 複合サービス事業
19. サービス業(他に分類されないもの)
20. 公務員
21. アルバイト・フリーター
22. 家事手伝い
23. その他

【全学部共通】 以下、当てはまる数字をマークしてください。

問03 弘前学院大学での学業を含む学生生活に対する満足度について伺います。

学業・学生生活について満足していますか。

- 4: 満足している
- 3: おおむね満足している
- 2: どちらかといえば満足していない
- 1: 満足していない

【全学部共通】

問04 満足度についてもう少し具体的に伺います。あなたの勉学や学生生活にとって、良かったと思うものは何ですか(複数回答5つまで)。

1. 授業科目
2. 実習・演習、ゼミナールの活動
3. 少人数教育
4. キャリア教育
5. インターンシップ
6. 資格取得
7. 部活・サークル活動
8. ボランティア活動
9. 海外留学
10. アルバイト
11. その他

【全学部共通】

問05 大学生活での学修について、自分自身としてはどのように評価していますか。

- 4: そう思う
- 3: どちらかと言えばそう思う
- 2: どちらかと言えばそう思わない
- 1: そう思わない

- | | |
|--------------------------------|---------|
| ①学生生活全体を通じて、大学の授業によく出席した。 | 4・3・2・1 |
| ②学生生活全体を通じて、何を学ぶのかを明確に理解していた。 | 4・3・2・1 |
| ③学生生活全体を通じて、課題や試験の準備に真剣に取り組んだ。 | 4・3・2・1 |

- ④ 学生生活全体を通じて、授業の内容を十分に理解することができた。 4・3・2・1
 ⑤ 学生生活全体を通じて、授業に対し、意欲的・積極的に取り組んだ。 4・3・2・1

問6 は所属する学部の問題に答えてください。評価数値は下のようになっています。

【文学部のみ】

問06 1年次～2年次における基礎教育科目、教養科目や一般教育科目の中で、次に示す分野や科目について、あなたの学生生活において、ためになった、役に立ったと思っていますか。

- 4：そう思う
 3：どちらかと言えばそう思う
 2：どちらかと言えばそう思わない
 1：そう思わない

- | | |
|---------------------------------|---------|
| ①基礎科目（基礎演習） | 4・3・2・1 |
| ②一般教育科目（キリスト教、人間・社会、自然、地域、教養演習） | 4・3・2・1 |
| ③外国語科目 | 4・3・2・1 |
| ④保健体育科目 | 4・3・2・1 |
| ⑤自由選択科目 | 4・3・2・1 |
| ⑥単位互換科目 | 4・3・2・1 |

【社会福祉学部のみ】

問06 1年次～2年次における基礎教育科目の中で、次に示す分野や科目は、あなたの学生生活において、ためになった、役に立ったと思いますか。

- 4：そう思う
 3：どちらかと言えばそう思う
 2：どちらかと言えばそう思わない
 1：そう思わない

- | | |
|------------------------|---------|
| ①基礎教育科目（基礎演習） | 4・3・2・1 |
| ②基礎教育科目（社会福祉・社会科学研究方法） | 4・3・2・1 |

【看護学部のみ】

問06 1年次～2年次における看護基盤科目の中で、次に示す分野や科目について、あなたの学生生活において、ためになった、役に立ったと思っていますか。

- 4：そう思う
 3：どちらかと言えばそう思う
 2：どちらかと言えばそう思わない
 1：そう思わない

①基礎演習	4・3・2・1
②一般教育科目（キリスト教概論、心理学など①③④以外の科目）	4・3・2・1
③外国語科目	4・3・2・1
④保健体育科目	4・3・2・1

問7も所属する学部の問題に答えてください。評価数値は下のようになっています。

【文学部のみ】

問07 学部の専門科目の授業を通じて、以下のような知識・技能・能力等がどのくらい身に付いたと自己評価していますか。

- 4：身に付いた。
 3：どちらかと言えば、身に付いた。
 2：どちらかと言えば、身に付いていない。
 1：身に付いていない。

①教養	4・3・2・1
②外国語運用能力	4・3・2・1
③特に専門的な知識や技術	4・3・2・1
④論理的な思考力	4・3・2・1
⑤文章表現能力	4・3・2・1
⑥説明する能力やコミュニケーション能力	4・3・2・1
⑦職業上役に立つ知識や技術	4・3・2・1
⑧物事を考える多角的な視点や、考え方の柔軟性	4・3・2・1
⑨多様性への理解	4・3・2・1
⑩課題を見つけ、解決する姿勢や解決方法	4・3・2・1
⑪協働して進める姿勢	4・3・2・1
⑫倫理性	4・3・2・1
⑬その他	4・3・2・1

【社会福祉学部のみ】

問 07 学部の社会福祉学支援科目及び社会福祉専門教育科目の授業を通じて、以下のような知識・技能・能力等がどのくらい身に付いたと自己評価していますか。

- 4：身に付いた
- 3：どちらかと言えば、身に付いた。
- 2：どちらかと言えば、身に付いていない
- 1：身に付いていない

①教養・常識	4・3・2・1
②社会福祉の対象・分野に関する基礎的事項	4・3・2・1
③福祉問題、生活課題の解明に向けた制度・政策等の専門的な知識	4・3・2・1
④対人援助技術に関する知識と技術	4・3・2・1
⑤論理的な思考力	4・3・2・1
⑥文章表現能力	4・3・2・1
⑦説明する能力やコミュニケーション能力	4・3・2・1
⑧人権に関する知識と人権意識	4・3・2・1
⑨多様性への理解	4・3・2・1
⑩主体性	4・3・2・1
⑪協調性	4・3・2・1
⑫責任感	4・3・2・1
⑬倫理性	4・3・2・1
⑭その他	4・3・2・1

【看護学部のみ】

問 07 学部の専門科目の授業を通じて、以下のような知識・技能・能力等がどのくらい身に付いたと自己評価していますか。

- 4：身に付いた
- 3：どちらかと言えば、身に付いた
- 2：どちらかと言えば、身に付いていない
- 1：身に付いていない

①教養	4・3・2・1
②看護実践能力	4・3・2・1
③倫理感に培われた豊かな人間性	4・3・2・1
④深く人間を理解する基礎的能力	4・3・2・1
⑤主体性	4・3・2・1
⑥協調性	4・3・2・1
⑦責任感	4・3・2・1

⑧リーダーシップ	4・3・2・1
⑨判断力	4・3・2・1
⑩研究的態度	4・3・2・1
⑪国際的視野	4・3・2・1

【全学部共通】

問 08 学部で学んだことが、あなたの進路の選択に役に立ったと思いますか。

4. 役に立った
3. どちらかと言えば、役に立った
2. どちらかと言えば、役に立たなかった
1. 役に立たなかった

【全学部共通】

問 09 大学の学修環境について伺います。施設、設備、備品の充実度はいかがでしたか。

4. 良かった
3. どちらかと言えば、学修、研究にそれほど不自由は感じなかった。
2. どちらかと言えば、学修、研究にやや苦勞した
1. 悪かった

【全学部共通】

問 10 就職活動への大学の支援についてはいかがでしたか。

4. 良かった
3. どちらかと言えば、良かった
2. どちらかと言えば、悪かった
1. 悪かった

【全学部共通】

問 11 大学生活を振り返って、弘前学院大学の教育について、今後、充実や改善すべき点があれば、それはどのようなところでしょうか、自由に書いてください。

質問は以上です。

ご協力ありがとうございました。

皆様のご健康と今後のご活躍を祈念します。

あとがき

このアンケート調査は、本学が全学的に実施したのは2018年度が初回で、以後19年度・20年度・21年度と継続している。今回の回収率91.4%は昨年度の89.3%を超えて過去最高の回収率であった。卒業間際の多忙な折に、アンケートに快く協力していただいた学生の皆さんに御礼申し上げたい。

アンケートの設問内容は、経年変化を把握するために全学部共通としたが、一部、学部固有の設問を設けている。ただし設問自体は従来と同一としている。

これまでと同様に、学修に対する学生自身の自己評価が昨年度と同様、8割、9割台の高率の肯定的評価であったのは喜ぶべきことであった。また基礎、教養等の科目や専門教育科目も、比較的高い評価であった。

ただし学生支援関係は昨年度より下降しており、さらにまた、施設・環境面では昨年度同様かなり厳しい指摘がある。

これらをすべて謙虚に受け止め、然るべく改善方策に着手しなければならない。これらについては、さらに踏み込んだ調査が必要になるだろうが、速やかに着手したい。

なお、本報告書の作成にあたって、データの整理、図表化は本学の電子機器管理センターにて処理した。これらは弘前学院大学IR室において管理・運用されることになる。

(大学FD委員会委員長 藁科勝之)

2021（令和3）年度 弘前学院大学 「卒業時アンケート調査」実施結果報告書
編集・発行 弘前学院大学：大学FD委員会 弘前学院大学 〒036-8577 弘前市大字稔町13-1 電話 0172-34-5211（代） FAX 0172-32-8768
2022（令和4）年5月31日 発行